

海洋エネルギー・鉱物資源開発における経済産業省と文部科学省との連携

経済産業省

海洋エネルギー・鉱物資源開発計画(仮称)を平成20年度内に策定

(石油・天然ガス)

- 探鉱実績の少ない海域を中心に三次元物理探査船「資源」等の活用により基礎物理探査を拡充
- 賦存可能性が高いと期待される海域での基礎試錐の実施
⇒民間探鉱活動を促進させ、新たな油ガス田を開発



(メタンハイドレート)

- 賦存状況の把握調査
- 周辺海域での産出試験、経済性の評価、生産に伴う環境への影響の評価技術の確立
⇒10年程度を目途に商業化を実現



(海底熱水鉱床)

- 周辺海域における賦存状況の把握のための調査
- 海洋環境基礎調査、環境影響予測手法の確立、探鉱・揚鉱技術の開発、製錬技術の開発
⇒10年程度を目途に商業化を実現

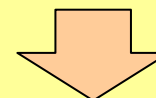


(コバルトリッチクラスト)

- これまでの調査を踏まえ、公海域及び排他的経済水域での資源ポテンシャル調査等を実施

文部科学省

- ・(独)海洋研究開発機構や大学等に蓄積された技術を活用し、
- ・海洋資源開発の商業化を促進するという観点から、以下の取り組みを実施。



海底熱水鉱床とコバルトリッチクラストを中心に、これらの賦存状況をより効率的・定量的に把握するための技術課題の検討を行い、主要な項目について産業界での活用を目指した開発を行う。



連携

